

知られざる幕末の秘史を描く長編歴史傑作！

よしのぶ  
「**将軍慶喜を叱った男 堀直虎**」  
ほい なおとら

**好評発売中！！**

その最期は、ただ「<sup>かんし</sup>諫死<sup>しる</sup>」と記された。信濃の  
小藩 須坂藩主は、なぜ江戸城中で切腹したのか!?  
誇り高く武士の道貫いた若き大名の鮮烈な生涯！



「恐れながら、申し上げます」

一万五十三石という全国でも最小の小藩・須坂。十三代藩主の堀直虎は、幕末の徳川幕府が最も困難な時期に、<sup>わかとしよりけんがいこくそうぶぎょう</sup>若年寄兼外国惣奉行という、現代で言えば「外務次官」にあたる、小藩藩主としては異例の要職に就く。だが、藩内では重役への賄賂が横行、人心も疲弊していた。直虎は、藩政改革を断行、さらに洋式軍備を取り入れるなどして、幕末の激変期に備える。やがて十五代<sup>よしのぶ</sup>将軍慶喜の大政奉還後には、親友の土佐新田藩<sup>やまうちとよし</sup>藩主山内豊福とともに、御三家紀伊大納言らに幕政堅持を訴えることに。そして、朝廷への恭順か抗戦かで揺れる江戸城中で、直虎は切腹して果てる。記録には「<sup>かんし</sup>諫死」とのみ。「誰に」「何を」<sup>いさ</sup>諫めたのか…。武家の誇りを高く抱き、時代を見る英知を備えた若き大名が選んだ<sup>きょうじ</sup>矜持を描く！

★歴史小説「将軍慶喜を叱った男 堀直虎」 (祥伝社発行)

★著者 江宮隆之氏 1冊 1,620円(税込) 四六判 240頁

★販売場所

須坂市生涯学習スポーツ課(市役所東庁舎1階)・同スポーツ振興係(創造の家内)・中央公民館・市立博物館・市立須坂図書館・蔵のまち観光交流センター・田中本家博物館・須坂温泉古城荘

【問合せ先】 須坂市生涯学習スポーツ課 ☎026-248-9027(課専用)

Eメール shogaigakushusports@city.suzaka.nagano.jp

## 【著者：江宮隆之（えみやたかゆき）氏のプロフィール】

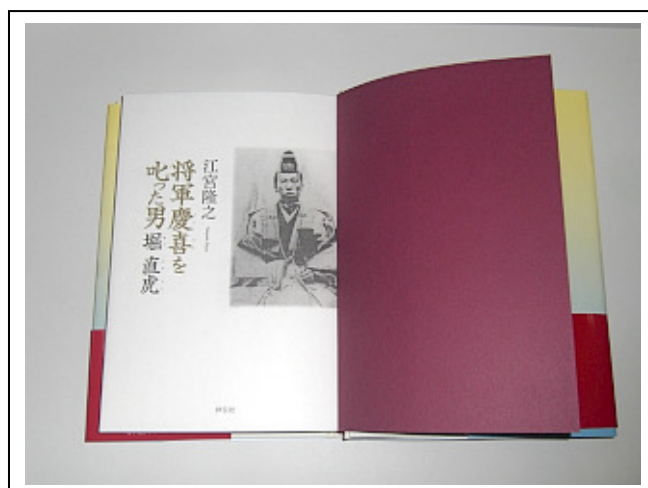
1948年、山梨県生まれ。中央大学法学部卒業後、山梨日日新聞社に入社。論説委員長などを経て作家専業となる。89年「経清記」で歴史文学賞。95年「白磁の人」で中村星湖文学賞を受賞。「白磁の人」は映画化され日本と朝鮮の架け橋となった浅川巧の生涯は多くの人に知られることとなった。以降も幅広いテーマで歴史小説、歴史ノンフィクションを書き続けている。近著に「朝鮮を愛し、朝鮮に愛された日本人」（祥伝社新書）、明治維新を創った男（PHP研究所）など



著者：江宮隆之氏



書籍



書籍